

やまかわ

ひぶりかわ

山川水系・火振川水系河川整備基本方針 流域と河川の概要

静岡県



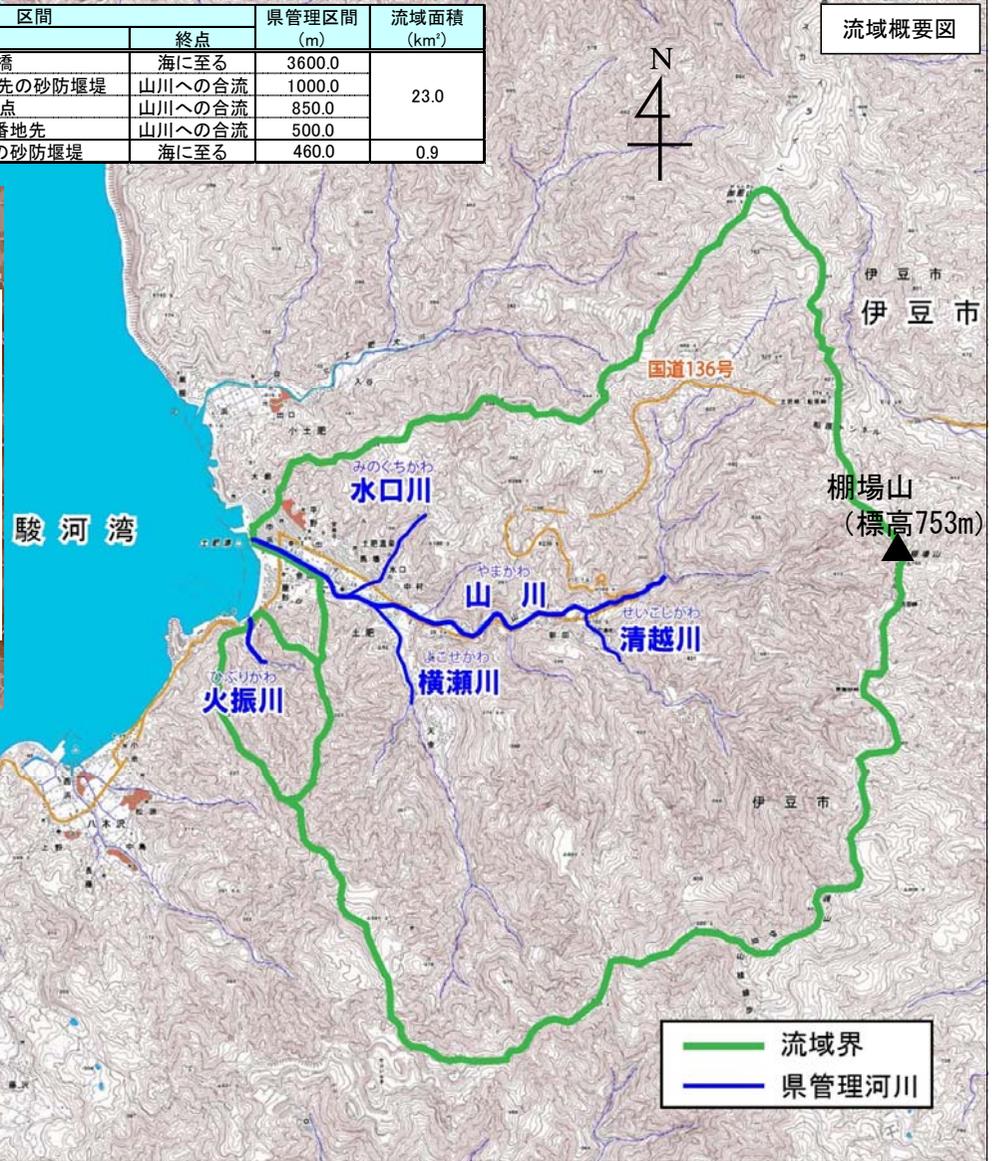
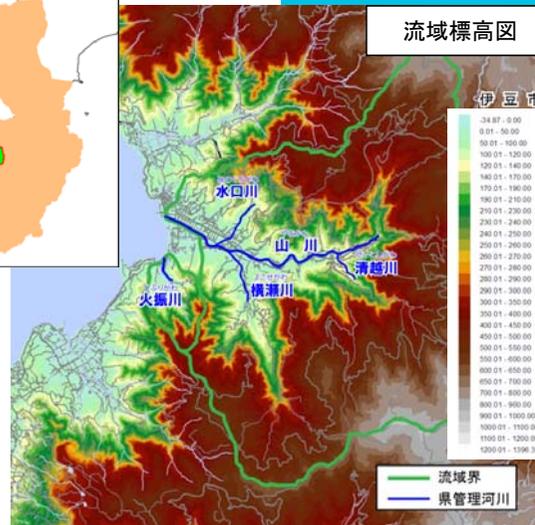
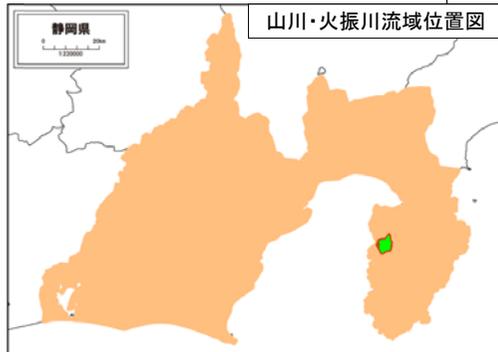
流域の自然状況 (1) - 流域の概要 -

【静岡県】 山川水系・火振川水系

- ▶ 山川は伊豆市土肥のたなぼやませいろく棚場山西麓に源を発し、清越川、横瀬川、水口川と合流し、土肥温泉街を貫流して駿河湾へ注ぐ、流域面積約23.0km²、県管理区間延長約3.6kmの二級河川である。
- ▶ 火振川は、伊豆市土肥に源を発し、土肥温泉街の南端を貫流して駿河湾へ注ぐ、流域面積約0.9km²、県管理区間延長約0.5kmの二級河川である。

流域の概要

水系名	河川	区間		県管理区間 (m)	流域面積 (km ²)
		起点	終点		
山川	山川	町道さる橋	海に至る	3600.0	23.0
	水口川	水口洞3559番の1地先の砂防堰堤	山川への合流	1000.0	
	横瀬川	檜沢合流点	山川への合流	850.0	
	清越川	上清越1909番地先	山川への合流	500.0	
火振川	火振川	亀石2863番地先の砂防堰堤	海に至る	460.0	0.9

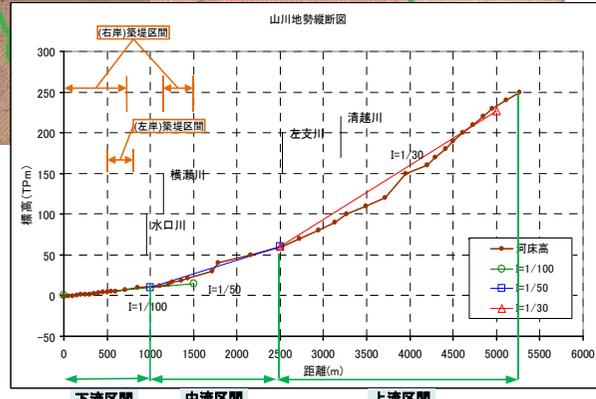


流域の大部分を山地や火山地が占め、下流部に限られた沖積低地が河川沿いに形成されている。

流域の地形

- <山川>
 ■流域の上流から中流にかけて火山地と山地に覆われており、下流は沖積低地が河川沿いにわずかに形成されている。
 ■河床勾配は、上流区間が1/30、中流区間が1/50、下流区間が1/100と比較的急峻である。
- <火振川>
 ■流域の大部分が山地となっており、下流のわずかな範囲に沖積低地が形成されている。
 ■火振川の河床勾配は、平均で1/16と急峻である。

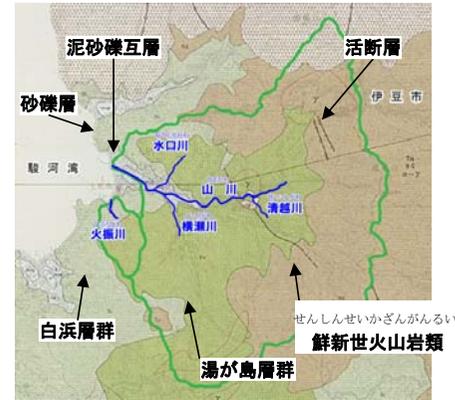
山川流域地形分類図



出典:「土地分類基本調査図 地形分類図 1/5万,1980年」
 (国土交通省 国土政策局 国土情報課HP)

流域の地質

- <山川>
 ■流域の東側には、棚場火山由来の鮮新世火山岩類が分布し、流域の中央部・西側では、海底火山の噴火物によって形成された湯が島層群が分布している。西側のわずかな低地には、砂礫層や泥砂礫互層といった未固結堆積物が分布している。
 ■湯が島層群は、風化作用・粘性土作用が進行しており、ところによっては極めて脆くなっている。
- <火振川>
 ■流域の大半が湯が島層群に覆われており、下流のわずかな低地に砂礫層が分布している。



流域地質図

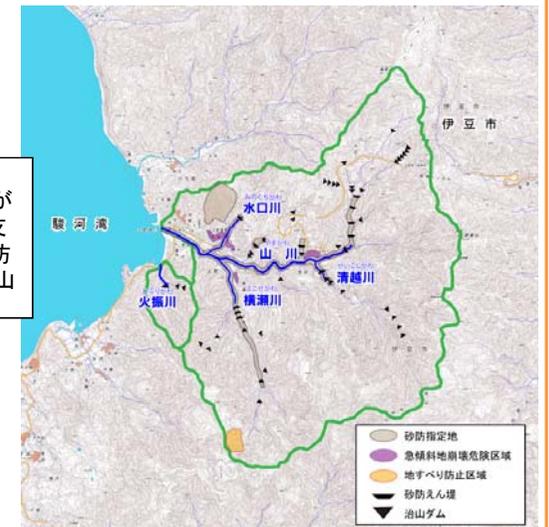
出典:「土地分類基本調査図 地形分類図 1/5万,1980年」
 (国土交通省 国土政策局 国土情報課HP)

湯が島層群

- 伊豆の湯が島に広く露出する暗緑色の緻密な火山性海底堆積物。
- 伊豆地方の温泉は湯が島層群中の割れ目に貯留されることから、土肥温泉において重要な地層である。
- 温泉水には様々な鉱物が沈殿するため、土肥金山において金鉱床が多く潜む地層としても重要であった。

【砂防事業・治山事業】

土砂生産が多いため、過去に土砂災害が多く発生している。そのため、本川及び支川の上流が砂防指定地に指定され、砂防堰堤が各所に設置されている。また、治山事業として治山ダムが設置されている。



砂防指定地の指定状況

流域の自然環境 (3) 一気候・気象一

【静岡県】 山川水系・火振川水系

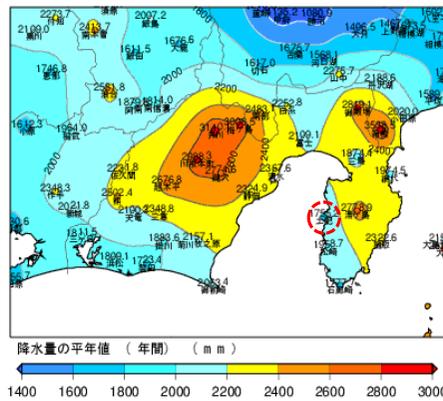
▶ 流域の気候は、全国平均値と比較すると温暖で、降雨量は全国平均並みであり、表日本式気候に属する。

気候

- 流域の平均年降水量は約1,750mmで全国平均と同程度である。静岡県内で見ると、少雨地域である。
- 平成15年には、時間雨量85mmの大雨が発生している。
- 年平均気温は、約16.2℃で全国平均15.5℃に比べて約1.0℃高い値を示しており、温暖な気候である。

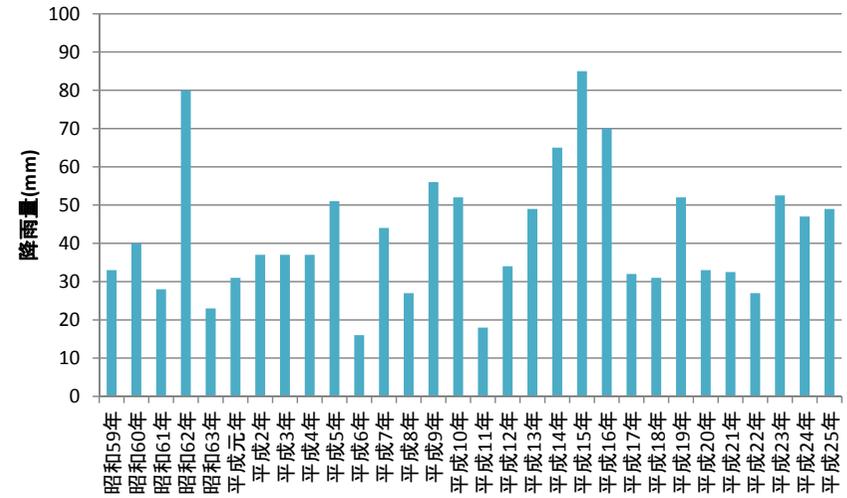


観測所位置図



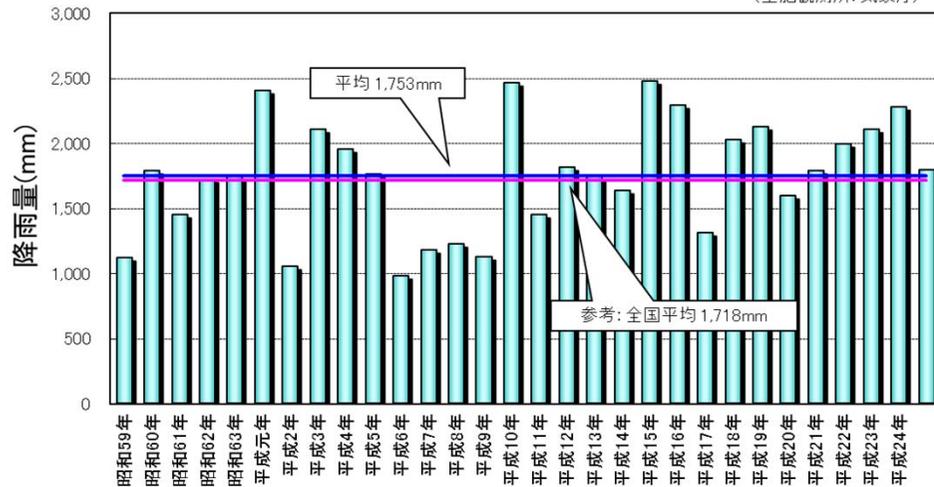
静岡県内の年間降水量平年値(出典:静岡地方気象台HP)

(土肥観測所:気象庁)

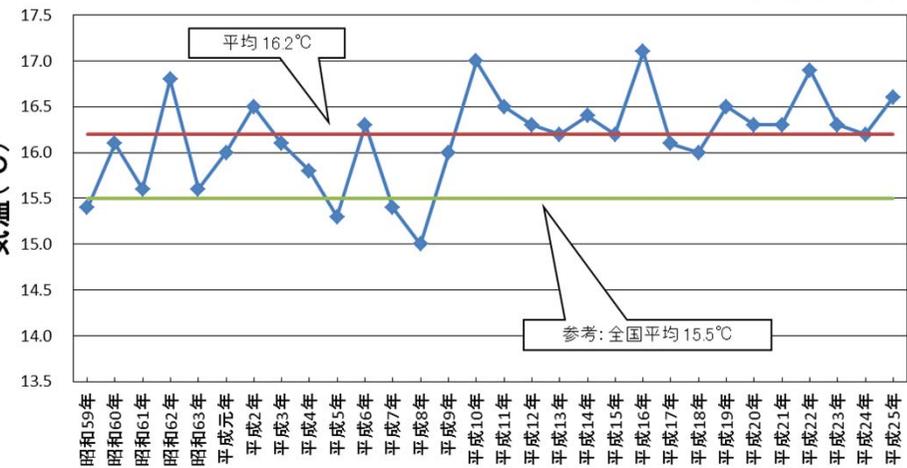


時間最大降雨量の推移(土肥観測所)

(松崎観測所:気象庁)



年間平均降雨量の推移(土肥観測所)



年間平均気温の推移(松崎観測所)

出典:気象庁 気象統計情報

流域の社会状況 (1) - 土地利用・人口・産業 -

【静岡県】 山川水系・火振川水系

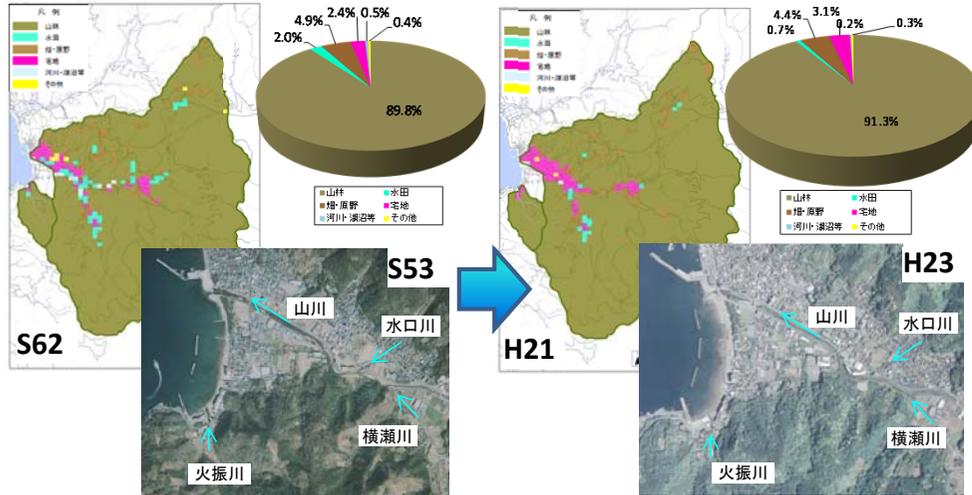
- ▶ 流域の大部分を山林が占め、中下流に宅地が分布している。
- ▶ 流域が位置する伊豆市土肥の人口は、世帯数とともに、年々減少傾向にあり、主な産業は土肥温泉等を中心とした観光業である。

土地利用の変遷

- 山川流域の大部分を山林が占め、中下流に宅地が分布している。
- 山川流域に占める山林の割合は約90%であり、宅地は2%である。
- 山川周辺の土地利用が「水田」から「宅地」に変化している。
- 火振川流域の大部分が山地を占めており、下流のごくわずかな低地に宅地が分布している。

山川流域の土地利用の推移

※その他には、「内水地」や「幹線道路」等が含まれる

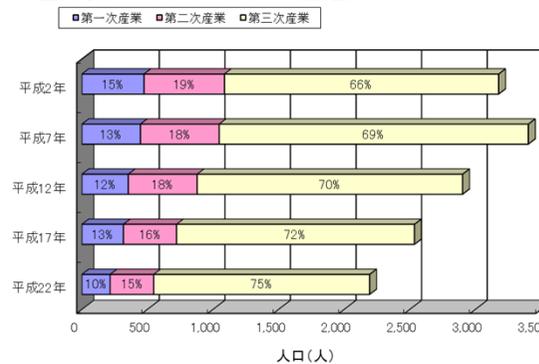


出典：国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ(国土交通省国土政策局国土情報課), 国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス

産業

- 江戸時代と明治～昭和にかけて、土肥金山における金の採掘が盛んであった(大正当時には全国第2位の金産出量となった)。
- 平成22年の生産人口は約50%で、年々減少しており、労働力の低下が懸念される。
- 流域の産業別人口構成は、継続して第一次産業、第二次産業の割合が減少しており、第三次産業の割合が増加している。
- 第一次産業は、山地地域で「みかんの栽培」、平野地域で「稲作」が行われているが、近年は減少傾向にある。また、特産品として、「しいたけ」や「白枇杷」が栽培されている。
- 二次産業は「建設業」、三次産業は土肥温泉等の「飲食店・宿泊業」が最も盛んに行われている。

産業別人口構成の変遷(土肥地区)



第一次産業

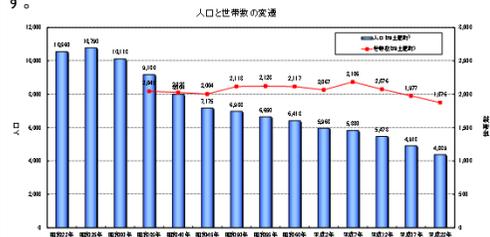


人口・世帯数の推移

- 平成22年における伊豆市土肥町の人口は約4,400人であり、世帯数は約1,900世帯である。
- 昭和25年をピークに、人口・世帯数は減少傾向にあり、過疎化が進行している。
- 年齢別人口の割合は、老年(65歳以上)人口の割合が増加している。

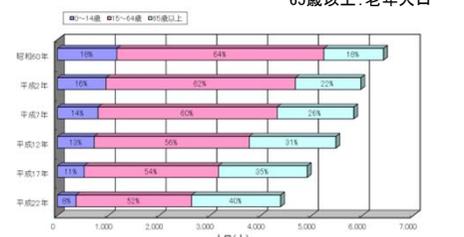
人口・世帯数の推移(土肥地区)

※昭和31年に土肥町と西豆村が合併しているため、昭和22年、昭和25年、昭和30年の人口は、土肥町と西豆村の合算値を示す。



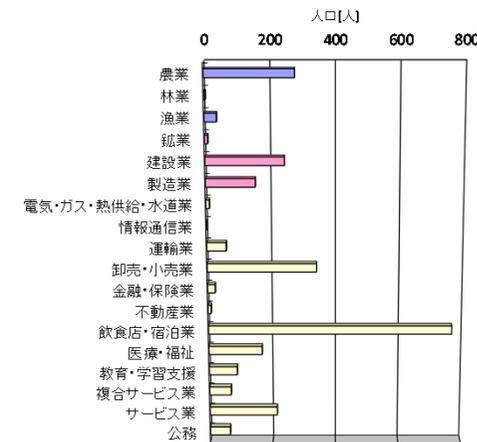
人口構成(土肥地区)

※0～14歳：年少人口
15～64歳：生産年齢人口
65歳以上：老年人口



出典：伊豆市統計書

産業大分類別就業者数(平成17年：土肥地区)



第三次産業



出典：伊豆市統計書

流域の社会状況(3) — 流域の歴史・文化等 —

【静岡県】 山川水系・火振川水系

- ▶ 流域周辺の遺跡・古墳から、山川流域・火振川流域では少なくとも縄文時代から人々が生活を営んでいたことが伺える。
- ▶ 天正5年から約50年間、土肥金山は全盛を向かえ、当時の繁昌ぶりは「土肥千軒」と言われた。
- ▶ 大正時代から昭和時代にかけて、再び金山での採掘が盛んとなり、当時の産金量は全国第2位であった。
- ▶ 明治末期から土肥温泉の名が知られるようになり、多くの旅人が訪れている。現在では、市が集中管理方式にて各旅館に配湯している。

歴史・文化

【土肥温泉】

- 温泉の発見には諸説あるが、一説では、慶長年間に安楽寺境内にて金鉱を採掘していたところ岩間から「まぶ湯」が湧出したことが始まりとされている。
- 土肥温泉の名が知られるようになったのは続々と温泉が試掘された明治末期からである。多くの旅人が訪れており、若山牧水は通算5回も長期滞在している。
- 大正末期から昭和にかけて、土肥金山が地下の坑道を掘削するに伴い多量の熱湯が噴出したことにより、温泉が徐々に枯渇する兆候が見せはじめ、昭和29年からは温泉を町営事業に移し、ポンプアップによる給湯を始めた。
- 現在では、6種の源泉を市で集中管理し、各旅館に配湯している。



まぶ湯
(安楽寺洞窟の入り口)



若山牧水像
(土肥大橋付近)

【土肥金山】

- 慶長11年(1606)徳川家康により金山総奉行に任命された大久保石見守長安は、先進技術を駆使し、金産出量を飛躍的に増大させた。最盛期には「土肥千軒」と言われたほどであった。ただし、土肥金山の全盛時代は天正5年(1577)~寛永2年(1625)の約50年間であった。
- 明治39年、神戸の実業家長谷川銕五郎が近代経営に乗り出し、大正6年に土肥鉱業株式会社を設立した。最新機械の導入によって、飛躍的に採掘量を増やし、産金量全国第2位の優秀金山に急成長した。しかし、一般物価や労務費が上昇する中で採算の悪化により、昭和40年9月30日を以って閉山した。



大久保石見守長安の像



長谷川銕五郎



戦後、馬場裏山から見た金山の従業員住宅
(昭和27年頃)

出典:「わが町土肥いま・むかし」、「新版 土肥の金山」

出典:「新版 土肥の金山」、「角川日本地名大辞典」



清雲寺(1471年)

安楽寺(1534年)

土肥神社(905年以前)

龕附天正金鉱

出典:「伊豆市観光協会HP」

【文化財】

指定区分	名称	種別	所在地
県指定	安楽寺のクス	天然記念物	土肥709安楽寺
	日蓮聖人一代記額絵	絵画	土肥644清雲寺
市指定	龕附天正金鉱	史跡	土肥2851-1
	土肥金山	史跡	土肥2726
	土肥神社「さつまころがし」	無形民俗文化財	土肥

※龕…仏を設けるための窪みのこと。金鉱の最奥部が祠となっている。
 ※「さつまころがし」…江戸時代に神社の石垣を築いた薩摩藩の石工達の仕事唄として伝承されたといわれ、当時の住民と薩摩藩の石工達の交流を物語る貴重な郷土芸能である。

【土肥神社】

土肥神社には、安政東海地震にまつわる2匹の馬の像が奉納されている。一説によると、須田善右衛門が馬をひいていたところに、津波が押し寄せて来て、馬に乗って走らせて逃げたことから命拾いをしたということから、奉納したというものである。以後、土肥神社祭典の折、欠かさず餅を供えていたと云われ、現在は、土肥神社例大祭に餅を木馬に供えている。

引用:「静岡県史(自然災害編)」「土肥の災害史」

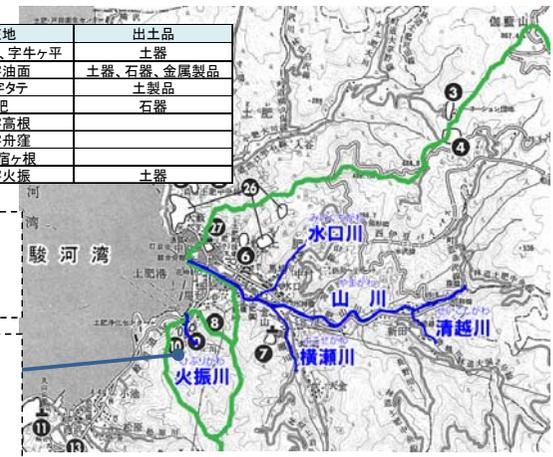
遺跡・古墳

【山川流域・火振川流域の遺跡・古墳】

番号	名称	時代	所在地	出土品
4	平石、牛ヶ平遺跡	縄文	土肥字平石、字牛ヶ平	土器
6	油面古墳	縄文、古墳	土肥字油面	土器、石器、金属製品
7	夕子遺跡	中世	土肥字夕子	土製品
26	高谷城跡	中世	土肥	石器
27	富永氏館跡	中世	土肥字高根	
8	天正金山遺跡	中世	土肥字舟窪	
9	宿ヶ根遺跡	古墳	土肥字宿ヶ根	
10	火振遺跡	縄文、古墳	土肥字火振	土器

- 山川流域・火振川流域では少なくとも縄文時代前期から人々が生活を営んでいたことがうかがえる。

- 火振川の西岸には、古墳時代中期のものと思われる火振遺跡がある。ホテルの従業員宿舎建設の際、出土した。



遺跡・古墳分布図 出典:「伊豆市の文化財」

流域の社会状況(4)－関連法令の指定状況－

【静岡県】 山川水系・火振川水系

- ▶ 山川流域は、自然公園指定地、保安林指定地、砂防指定地に指定されており、火振川流域は、自然公園指定地、砂防指定地に指定されている。
- ▶ なお、鳥獣保護区、都市計画区域には指定されていない。

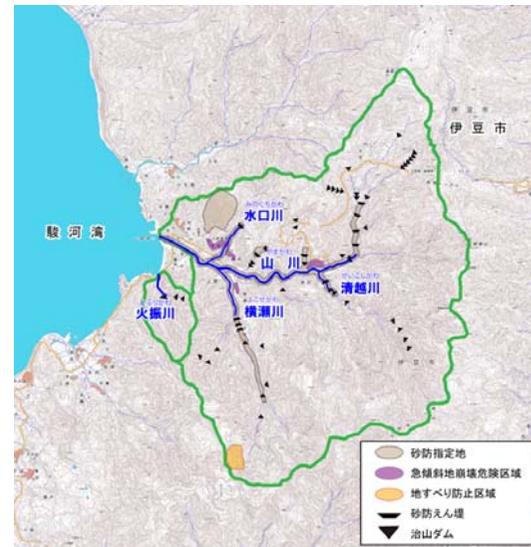
自然公園の指定状況

- 山川流域の含まれる「富士箱根伊豆国立公園」は全域121,695ha(内、静岡県46,693ha)である。
- 山川流域内東側と河口部は特別地域に指定されている。



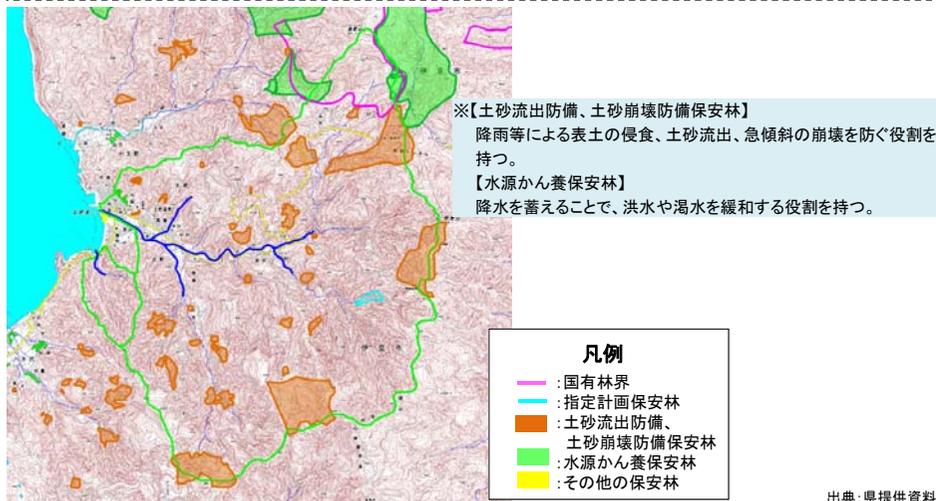
砂防指定地の指定状況

- 山川に沿って、急傾斜地崩壊危険区域が分布している。
- 下流域には、砂防指定地が分布している。
- 流域内には、地すべり防止区域も分布している



保安林の指定状況

- 山川流域には、河口部～下流域を除く山川流域内に、保安林指定地区が点在している。
- 火振川流域には、保安林の指定区域はない。



農業振興地域の指定状況

- 山川及び支川(水口川、横瀬川、清越川)付近では農用地として、田や畑が指定されている。
- 一部地域では、樹園地が指定されている。



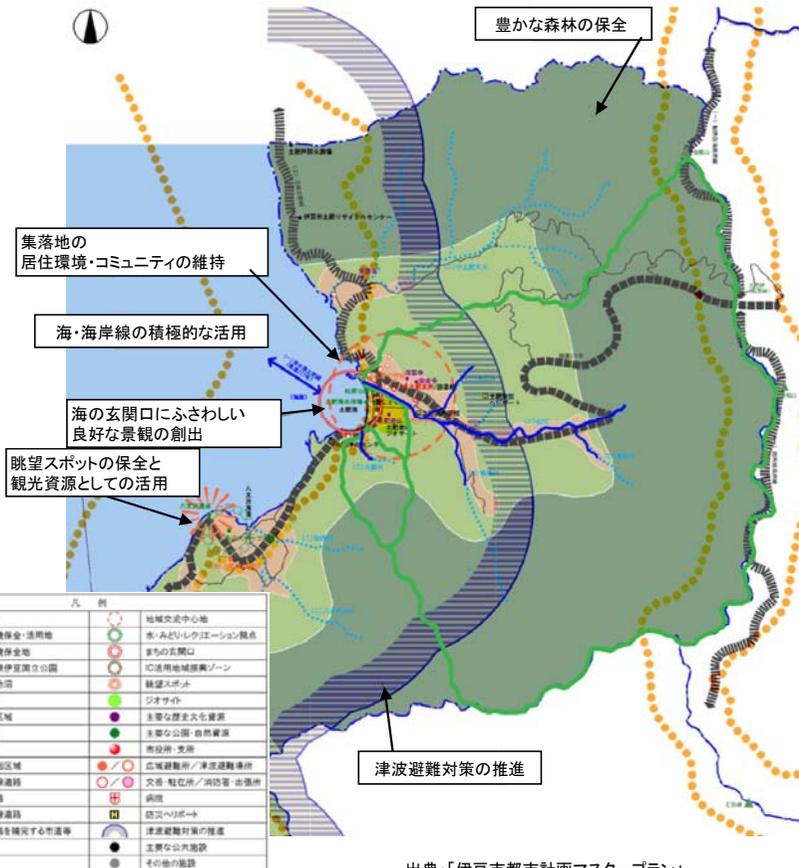
流域の社会状況(5)－関連計画－

【静岡県】 山川水系・火振川水系

- 伊豆市では、平成26年3月に将来都市像について都市計画マスタープランが策定されている。土肥地域では、「海・海岸線を活かした 安全で魅力ある観光地としての地域づくり」を地域のまちづくりのテーマとしている。
- 第4次地震被害想定を踏まえ、平成26年に「伊豆半島沿岸保全基本計画」が変更され、ハード対策とソフト対策を合わせた総合的な津波対策が推進されている。

伊豆市都市計画マスタープラン

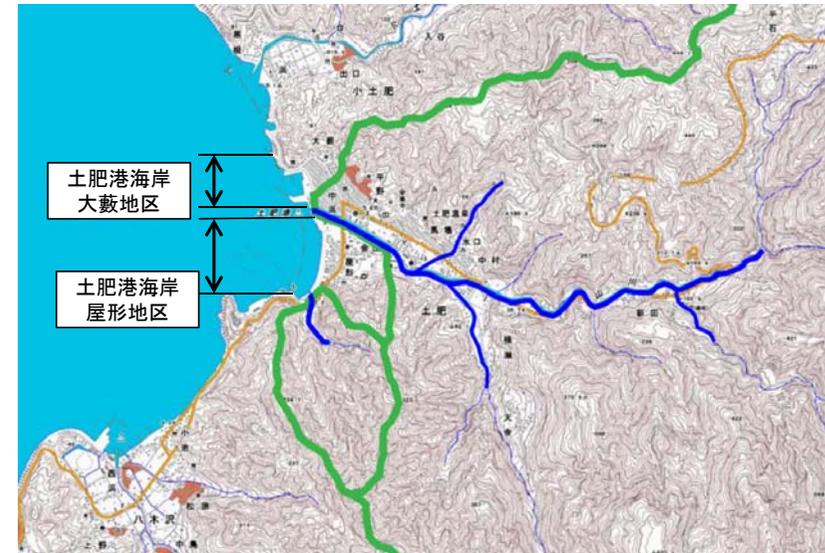
- 土肥地域では、駿河湾を望む海岸線を持つ地域として、海・海岸線を活かした観光振興を図るとともに、地震・津波対策等により安全性を高め、海の玄関口にふさわしい海岸線と調和した街並みの創出を図ることにより、魅力ある観光地としての地域づくりを目指す。
- 地域まちづくりの目標として、以下の4点が挙げられている。
 - ・地震・津波に強い地域づくり
 - ・海・海岸線を活かした観光地としての魅力づくり
 - ・海の玄関口にふさわしい街並み景観の創出
 - ・地域特性と地域のニーズを踏まえた新たな公共交通体系の検討



出典:「伊豆市都市計画マスタープラン」

伊豆半島沿岸海岸保全基本計画

- 各海岸の特性に応じた海岸護岸の保全施設整備、海岸環境の保全、そして海岸利用に配慮し、総合的な海岸保全を推進する。
- ハード(施設整備等)、ソフト(避難対策等)の対策を合わせた「多重防御」による総合的な防災・減災対策を推進する。
 <田子湾～大瀬崎ゾーン>
- 来襲が予想される津波に対し、海岸保全施設を整備するとともに利用特性等を踏まえ、情報施設の整備等、ソフト対策を合わせた総合的な津波防災を推進する。
- 浸食が進行している海岸では、養浜を主体とし、必要に応じて漂砂制御施設を整備し、砂浜の維持・回復を図る。



土肥港海岸の整備内容

海岸名	地区名	延長(m)	代表堤防高(m) (T.P.50cm単位)	種類	地域	状況	備考
土肥港海岸	大藪	690	9.0	胸壁	伊豆市大藪	住宅地(密集)	津波対策
	屋形	840	9.0	堤防	伊豆市屋形	住宅地(密集)、 商業・業務用地	津波対策

↑新モデル追加(H27.6)に伴い堤防高を変更。

出典:「伊豆半島沿岸海岸保全基本計画(変更案)」

治水の現状と課題(2) - 治水上の課題 -

【静岡県】 山川水系・火振川水系

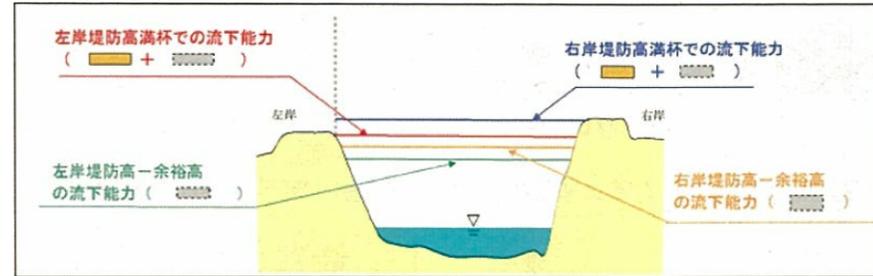
河川付近と河口から1.00km上流付近を除いて、概ね確率1/30年の安全度を確保している。

現況流下能力(山川)

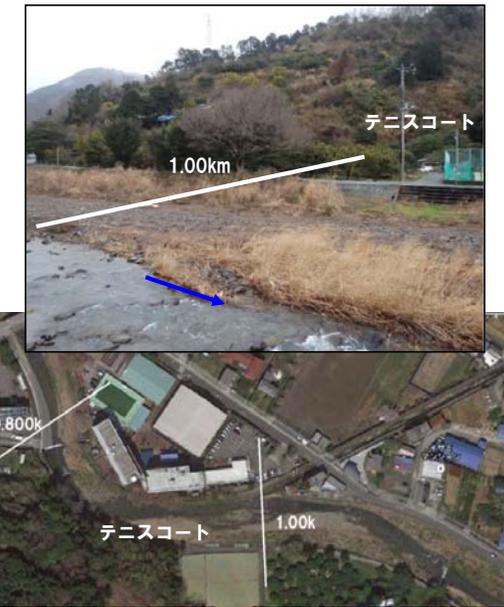
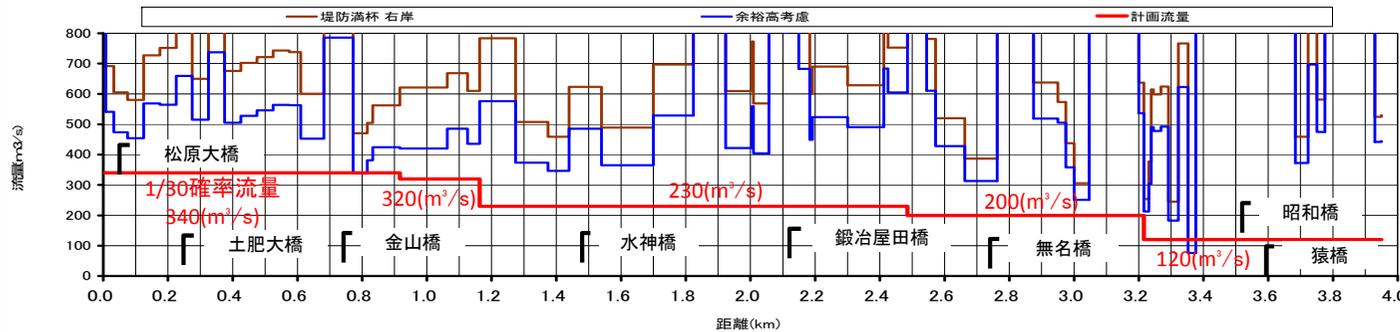
流下能力の説明

【余裕高】

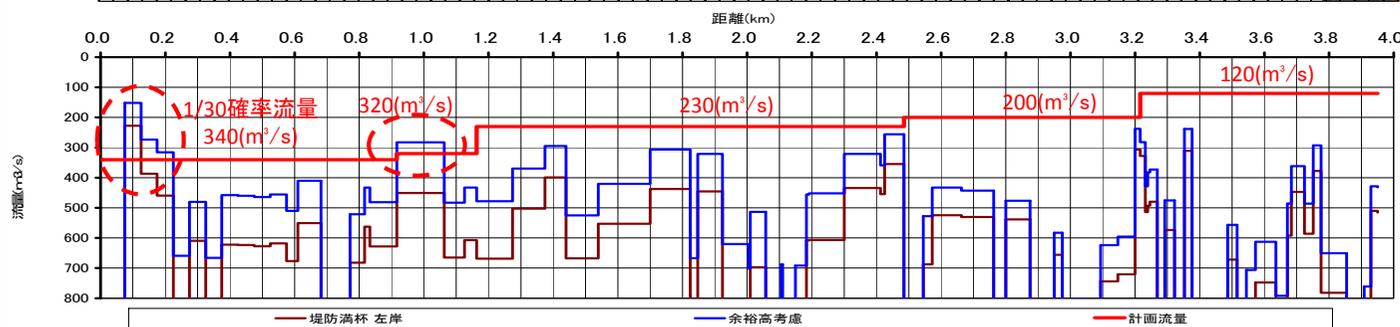
洪水時の激しいうねりなどの一時的な水位上昇への対応や巡視・水防活動の安全実施等のために計画高水位に加える高さ



右岸



河口



左岸

山川 現況河道流下能力図

治水の現状と課題(3) - 津波対策 -

【静岡県】 山川水系・火振川水系

- ▶ 山川の右岸側には津波対策による特殊堤が整備されているが、山川の左岸側及び火振川では景観への懸念により津波対策による堤防の整備が行われていない。
- ▶ 地域海岸（土肥港海岸）の必要堤防高はT.P.+9.0mとされている。

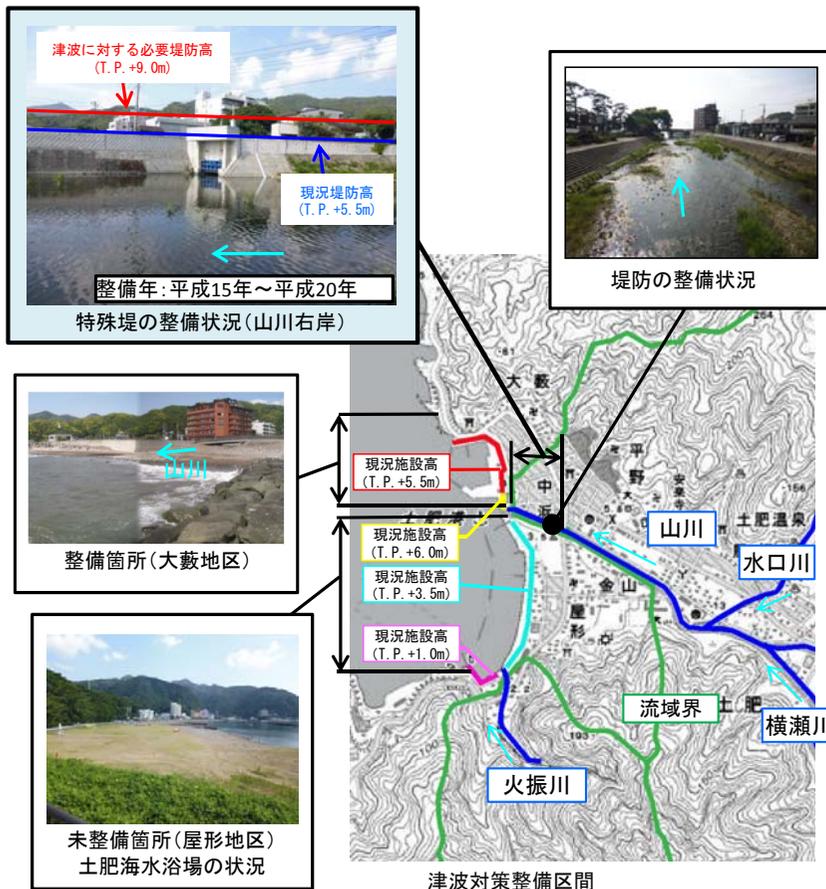
これまでの津波対策

【周辺の海岸の整備状況】

- 山川の右岸側に位置する大藪地区では、第3次地震被害想定に沿って、胸壁の嵩上げによる津波対策が完了している。
- 山川の左岸側より南に位置する屋形地区では、地元との合意形成が出来ていないため、津波対策による堤防の整備が行われていない。

【河川の津波対策】

- 山川右岸の河口～土肥大橋区間において、特殊堤による津波対策が完了している。しかし、堤防高は第4次地震被害想定で必要な高さを満たしていない。
- 山川の左岸及び火振川においては、隣接する海岸の津波対策が完了していないため、津波対策による堤防の整備が行われていない。

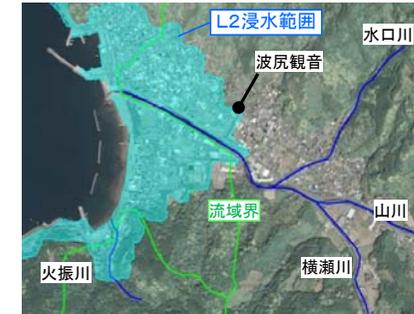


津波浸水区域 (第4次地震被害想定)

計画津波 (L1) による浸水区域



最大クラスの津波 (L2) による浸水区域



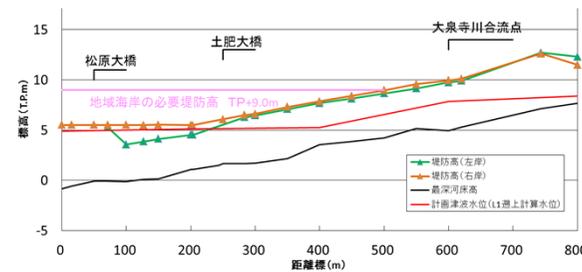
【計画津波 (L1)】

- 山川では、河川内を約0.8km遡ると想定されている。
- 火振川では、河川内を約0.3km遡ると想定されている。
- 土肥港海岸(大藪地区～屋形地区)で38.4haの浸水が想定されている。

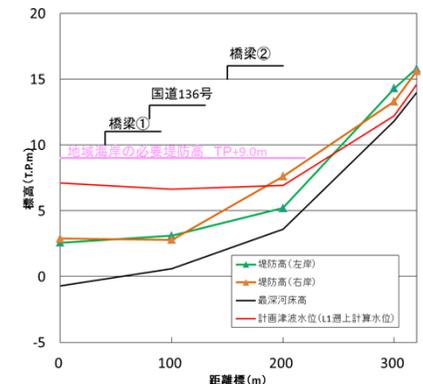
【最大クラスの津波 (L2)】

- 土肥港海岸(大藪地区～屋形地区)で54.5haの浸水が想定されている。

山川 L1 津波遡上縦断面図



火振川 L1 津波遡上縦断面図



河川の利用－水利用の現状－

【静岡県】 山川水系・火振川水系

- ▶ 山川流域では、慣行水利権により農業用水目的の取水が行われている。
- ▶ 山川河口部では、地域住民の交流の場として利用されている。

水利用状況

- 山川水系では、許可水利権としての取水は行われておらず、慣行水利権として農業用水を目的とした取水が行われている。
- 火振川水系に係る水利権は設定されていない。
- 現在は漁業権が設定されていない。
※かつて、山川にて漁業権が設定されていたが、H19.2に廃止となっている。

山川の水利用(水利権)の状況

河川名	慣行水利権			
	かんがい		その他	
	件数	面積(ha)	件数	面積(ha)
山川	6	28.8		
横瀬川	2	3.5		

まえきぼ
前木風用水



取水の状況

取水堰の位置図



ゴンロ用水



取水の状況

河川空間利用状況

- 旧土肥町により土肥大橋～金山橋(約680m)を対象に土肥山川修景計画として、「青春の道整備計画」を策定され、松原大橋～土肥大橋(約180m)の左岸および土肥大橋～金山橋(約500m)の右岸では、親水空間の創出を目的とした河畔道やリバーサイド遊歩道等が整備されている。
- かつては、年1回、3月に釣りを目的として、河口～水神橋の複数箇所ですの放流が行われていた。



魚釣りの様子

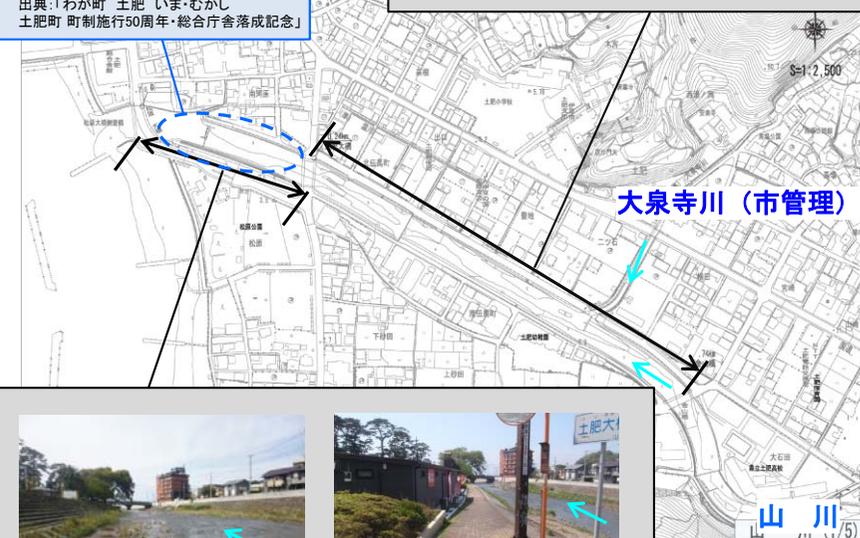
出典:「わが町 土肥 いま・むかし
土肥町 町制施行50周年・総合庁舎落成記念」



右岸の状況



右岸のアルコーブ



河道内の状況



左岸の状況

出典:慣行水利権台帳

出典:「青春の道 整備計画、土肥町」

河川環境(1)－河川水質－

【静岡県】 山川水系・火振川水系

- ▶ 山川流域及び火振川流域では環境基準の類型指定はない。
- ▶ 山川流域では、河口域から横瀬合流点付近まで公共下水道が整備されており、火振川流域では公共下水道整備が完了している。

水質

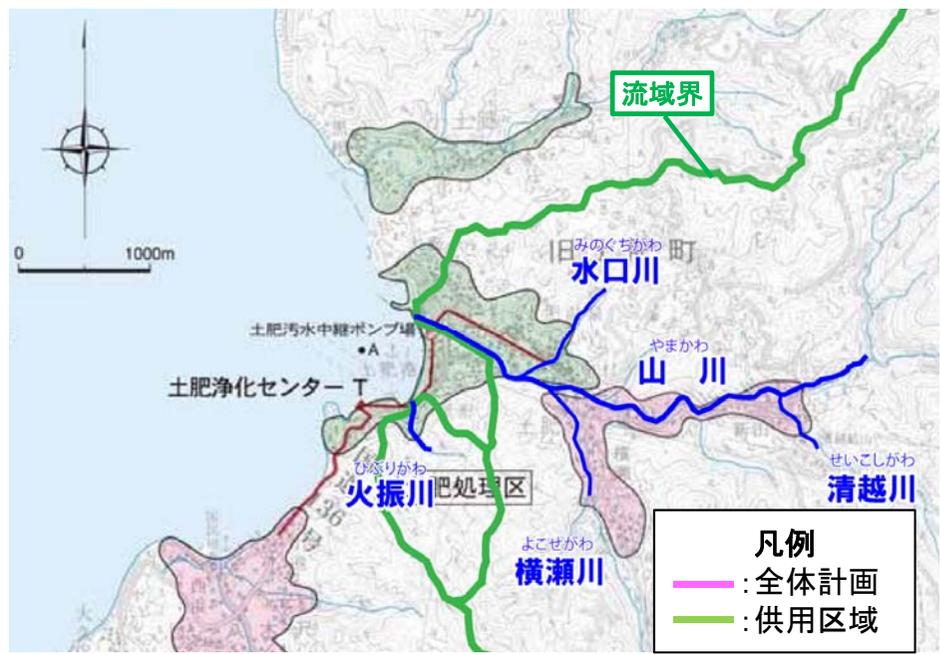
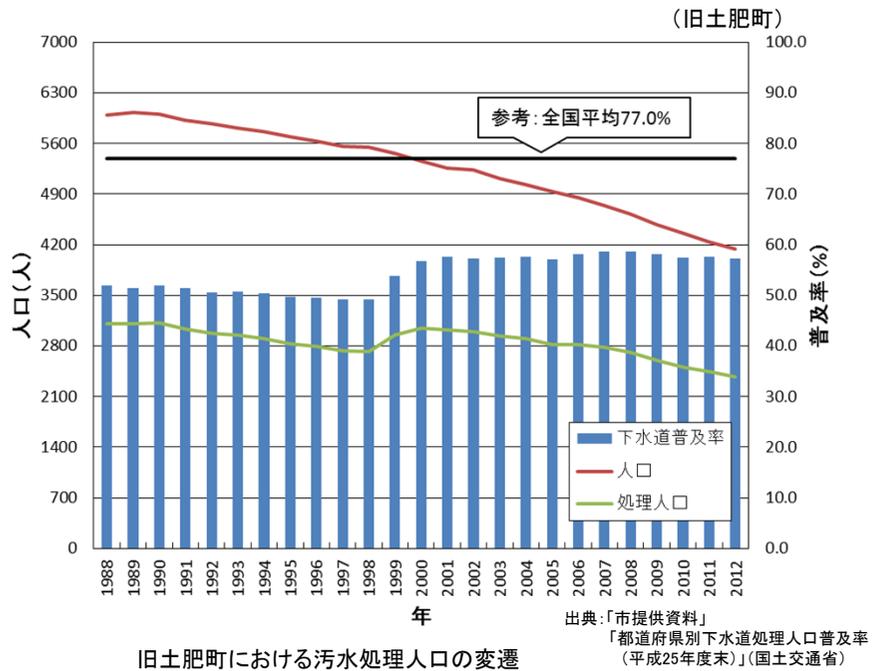
- 山川流域及び火振川流域では、環境基準の類型指定がなく、過去の水質調査データがない。
- 魚類調査の結果や住民アンケートの結果から、比較的水質が良好であることが伺える。

下水道

- 伊豆市土肥地区における下水道普及率は約60.0%と全国平均に比べて低いが、市街地が集中している下流部の公共下水道の整備は完了している。

伊豆市土肥地区における下水道普及率は、1998年以前は約50.0%であり、2000年以降に増加し、近年では約60.0%に達している。

土肥地区では、公共下水道は土肥浄化センターで処理されている。土肥浄化センターは、昭和61年4月に供用が開始され、駿河湾に放流を行っている。横瀬川合流点より上流については、公共下水道が整備されていないが、合流点より下流、また火振川の下流といった市街地が集中している地域については、公共下水道が整備されている。



公共下水道の処理区域図 出典:「静岡県の下水道(H26)」

河川環境（２）－流域の自然環境（魚類）【静岡県】 山川水系・火振川水系

- ▶ 4地点（河口域、下流域、中流域、上流域）で魚類調査を行った結果、魚類：13種、底生動物：9種が確認された。
- ▶ 重要種としては、カマキリ（アユカケ）やニホンウナギが確認され、外来種は確認されなかった。

魚類生息状況

魚類調査の様子
(河口域調査)



No.	目	科	種名	H26.11 現地調査		H27.6 現地調査		文献調査	
				河口域	下流域	中流域	上流域	中流域	上流域
1	コイ目	コイ科	アブラハヤ		○	○	○		○
2			ウグイ属	○		○			
3		ドジョウ科	ドジョウ			○			
4	サケ目	アユ科	アユ	○	○	○		○	
5		サケ科	ニジマス						○
6	スズキ目	スズキ科	スズキ	○					
7			ボウズハゼ	○				○	
8		ハゼ科	スミウキゴリ	○	○	○			
9			シマヨシノボリ		○	○			
10			ルリヨシノボリ			○	○	○	○
11			ヨクラカハゼ	○	○			○	○
12			クロヨシノボリ					○	○
13			トウヨシノボリ					○	○
14	ウキゴリ					○			
15	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	絶滅危惧ⅠB (BN)【環境省RDB】 現地調査にて確認。					
16	カサゴ目	カサガ科	カマキリ(アユカケ)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)【環境省RDB】、準絶滅危惧種 (NT)【静岡県RDB】 現地調査にて確認。					
17	サケ目	サケ科	アマゴ	要注目種 (N-Ⅱ)【静岡県RDB】 現地調査にて確認。					

※文献調査には、「環境省RDB2004（動物編、普及版）」、「静岡県の自然環境（1985）」、「静岡県の淡水魚類（1982）」、「神奈川県西部および伊豆半島の淡水魚類調査について（予報）（1982）」を用いた。

凡例

- : 現地調査地点
- : 文献調査地点



カマキリ

環境省:なし
静岡県:準絶滅危惧種(NT)



ニホンウナギ

環境省:絶滅危惧ⅠB
静岡県:なし

No.	綱名	目名	科名	種名	H26現地調査		H27現地調査	
					河口域	下流域	中流域	上流域
1	腹足綱	盤足目	カワニナ科	カワニナ	○			
2	軟甲綱	エビ目	ヌマエビ科	ヌマエビ	○	○	○	
3				ヤマトヌマエビ				○
4			ヒラテナガエビ		○	○		
5			モクズガニ科	モクズガニ	○	○	○	
6	昆虫綱	トンボ目	ヤンマ科	コシボソヤンマ		○		
7			エソトンボ科	コヤマトンボ				
8			カゲロウ目	モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ			○
9		ヘビトンボ目	ヘビトンボ科	ヘビトンボ			○	

出典:「平成26年及び平成27年調査結果」

河川環境（3）－流域の自然環境（その他）－【静岡県】 山川水系・火振川水系

- ◆ 有識者ヒアリング・文献調査・植物調査の結果より、鳥類（96種）、植物（45種）が確認されている。
- ◆ 鳥類は、環境省や静岡県レッドリストに掲載されているコシアカツバメやヤマセミなどが確認されている。
- ◆ その他の生物は、環境省や静岡県レッドリストに掲載されているマツバラシ、エビネが確認されている。
- ◆ 外来生物としては、鳥類（ガビチョウ、ソウシチョウ）、植物（コセンダングサ、セイタカアワダチソウ）などが確認されている。

鳥類重要種



コシアカツバメ

環境省：なし
静岡県：準絶滅危惧種(NT)



ヤマセミ

環境省：なし
静岡県：絶滅危惧Ⅱ類(VU)



ハヤブサ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)
静岡県：絶滅危惧Ⅱ類(VU)



サンコウチョウ

環境省：なし
静岡県：準絶滅危惧種(NT)

その他



マツバラシ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)
静岡県：絶滅危惧Ⅱ類(VU)



エビネ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)
静岡県：準絶滅危惧(NT)

特定外来生物（鳥類）



ガビチョウ



ソウシチョウ

要注意外来生物（植物）



コセンダングサ



セイタカアワダチソウ

出典：「まもりたい静岡県の野生物 動物編/普及編
県版レッドデータブック2004」
「静岡県HP」
「環境省HP」
「平成26年調査結果」
「麻機遊水地の自然」

住民アンケートの集計結果の概要

【静岡県】 山川水系・火振川水系

- ▶ 約6割の人が川の流れや空気などの環境がきれいであることを理由に山川水系に好印象を持っている。
- ▶ 約6割の人が浸水被害を経験しており、身近な川が安全だと思う人は約4割である。
- ▶ 治水安全度の確保を望む声の他、親水性の向上や自然環境、水質の保全を望む声も多い。

アンケート実施方法

項目	内容
実施時期	平成27年5月
対象地域	山川流域（沼津市土肥）
対象人数	828人：流域内全戸数
配布方法	自治会を通じて全戸配布
回収方法	郵送による回収
回収数・回収率	259（31.3%）

アンケート結果概要

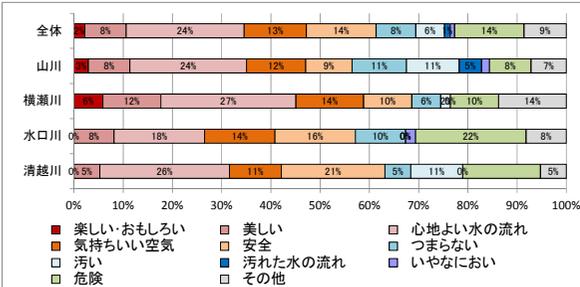
回答者内訳

	山川	横瀬川	水口川	清越川	合計
10代	0	0	0	0	0
20代	0	1	0	0	1
30代	6	0	2	0	8
40代	18	2	1	1	22
50代	18	2	7	1	28
60代	56	12	10	4	82
70代	40	9	4	2	55
80歳以上	28	3	4	2	37
無回答	2	0	0	0	2
合計	168	29	28	10	235

※普通河川 大泉寺川で22名、普通河川 立花川で2名が回答している。
基本方針対象河川に絞って紹介している。

河川の印象

問. 身近な川は、どのようなイメージですか？（複数回答可）

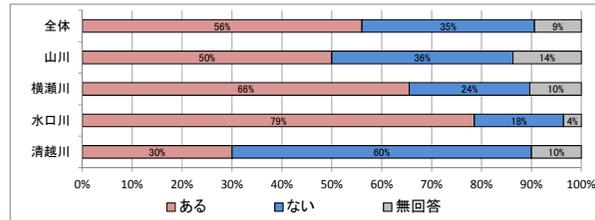


■ 全体では7割をこえる人が身近な川に好印象を持っており、きれいな水の流れや空気などの環境、安全な暮らしを守ってくれること等が理由として挙げられている。

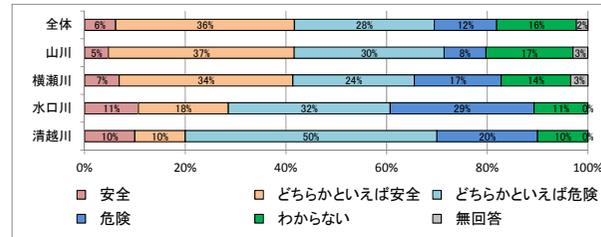
■ 清越川は、水の汚れや水辺への近づきにくさ等の理由から、他河川と比較して好印象の割合が少ない。

治水

問. 過去に水害にあったことがありますか？



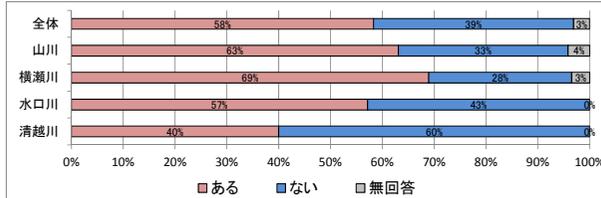
問. 身近な川は洪水に対して安全だと思いますか？



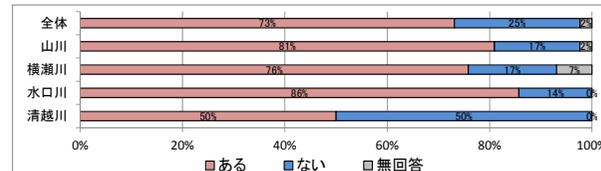
■ 6割近くの人が山川又は支川における浸水被害を経験しており、現状でも河川が安全だと思う人は4割程度である。

川との関わり

問. 身近な川で遊んだ経験や、イベントや活動で川を利用されたことがありますか？



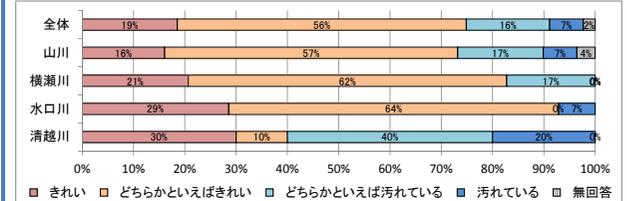
問. 身近な川の草刈りやゴミ拾いなどの河川愛護活動や、自然環境保全活動に参加したことがありますか？



■ 過半数の人が身近な川で魚釣りや水遊びなどの利用を行ったことがある。また、自然環境保全活動は7割をこえる人が経験しており、地域と川との繋がりが比較強いことが伺える。

環境

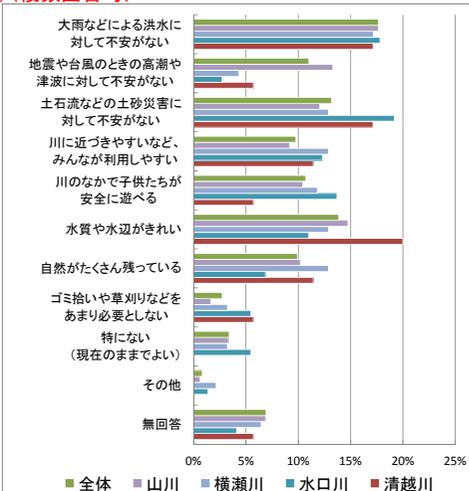
問. 身近な川の現在の水質についてどう思いますか？



■ 水質については、清越川を除く河川では7割以上の方が、「きれい」「どちらかといえばきれい」と回答している。
■ 清越川では水質を良好と思う人が4割にとどまり、河川への印象に影響していると考えられる。

今後の河川整備

問. 身近な川の川づくりについて重要だと考えているものをお聞かせください。（複数回答可）



■ 治水安全度（土砂災害を含む）の確保のほか、親水性の向上や自然環境、水質の保全を望む声が多い